



大学院だより



大学院 Elective Study: Google 本社にて

平成26年度 大学院 Elective Study

一ヶ月の研修を終えて思うこと

理工学講座

1年 染屋智子

日本を離れイノベーションの地と呼ばれるシリコンバレーで研修してきた一ヶ月間、他には替え難い体験をしました。研修プログラムの参加者は年齢も専門領域もバラバラでした。彼らとの出会いは刺激的であり、時には楽しく和やかな雰囲気もありましたが、いざ研修になると批判的に意見

や質問を言い合う関係となりました。例えばプレゼンテーション用のスライドを完成させ、経営学部の学生に見せたところ下書きかと思ったと言われたこともありました。プレゼンテーションで何を伝えるかはもちろん大事なことです。どのように聞き手の興味を引かせるスライドにするかは正直なところ今まで意識してこなかったことです。彼のスライド作成の指導は朝の4時まで続きまし

た。批判的意見を受けることは始めのうちは辛く自分の不出来に落胆することもありました。しかし研修開始後すぐに彼らの意識・心・人間性のレベルの高さは理解できましたし、話し合い意見をぶつけ合い一つの問題を解決していく過程でお互いを刺激し高めあえたはずです。このような仲間との出会いはこのプログラムで得た最も大切なものでした。



参加者以外にもたくさんの出会いが溢れていました。スタンフォード大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校、バークレー校、サンノゼ州立大学、訪問先の企業、経済イベントなどの研修中での出会いの他、毎日通ったスーパー、バスの中、ホテルでの出会いなど数え切れません。

その中で一つ紹介したいと思うのは、ホテルでの朝食中に話をしたアメリカ人女性との出会いです。彼女は私たちにメキシコの漁師の話をしてくれました。

“メキシコに貧しくとも幸せに暮らしている漁師がいました。毎朝家族が食べる分の魚を釣り、家に帰って昼寝をし、奥さんとシエスタをして、子供たちと遊ぶ毎日でした。ある日アメリカのビジネスマンがその漁師の釣りを見てこういいました。「君は釣りの才能がある、その才能を生かしてアメリカでビジネスをしないか？忙しくはなるが会社を建て従業員も雇い、いずれは必ず億万長者になれる」その後メキシコの漁師はこう聞き返しました。「お金持ちになった先はどうなるのか」と。「お金持ちになったら引退すればいい、そうしたら毎日時間はたっぷりあるのだから朝は魚を釣り、家に帰って昼寝をし、奥さんとシエスタをして、

子供たちと遊ぶ毎日が送れる」これがアメリカ人の答えでした。”

この話を聞いた後、今の自分をあてはめて物語について考えてみました。結果が同じならメキシコに残るだろうか、それともアメリカへ行くだろうか。アメリカで会社を設立すれば自分のノウハウを世界に広めることができるし、新しい世界へ挑戦するという期待感に胸が刺激されるでしょう。しかし私の考え抜いた答えはメキシコに残ることでした。

今の自分の状況は恵まれている、しかしその中でもっと改善が必要な部分もあるし、努力しなくてはいけないことも山ほどあります。メキシコに残って自分の能力を高め、自分の現状に満足行くようになったらきっとアメリカに行きたいと思えるはずです。その日のためには自分に今何ができるのか、何をやらなくてはいけないのかを常に考え生活していくことにします。

正直一ヶ月の研修で自分の何が変わったか具体的にはわかりません。しかし帰国後はこの研修を振り返り咀嚼し、行動や意識を徐々に、時には大胆に変えていく覚悟です(9月29日帰路の機内でこの原稿を書いています)。

このような貴重な機会を与えてくださった東京歯科大学大学院、井手祐二 US-JAPAN FORUM 代表、研修を支援してくださった全ての方に深謝いたします。



Elective Study グローバルプロ養成プログラム 研修報告

生理学講座
1年 小島佑貴

8月29日から9月29日の1か月間、大学の御厚意により、アメリカ・カリフォルニア州海外研修の機会を得ることができました。多くのベンチャー企業や一流企業が集まるシリコンバレーにおいて、次々と産学連携プロジェクトを実現するスタンフォード大学、カリフォルニア州立大学バークレー校そしてサンノゼ州立大学を訪問することができました。



スタンフォード大学では睡眠医学研究を行っている研究室に2週間滞在し、幸運なことに世界最先端の治療および研究を行っている睡眠医療センターの医局カンファレンスにも参加することができました。私の研究テーマの一つが睡眠時無呼吸症候群なので、その大家であるギルミノ先生に直接質問をし、研究へのアドバイスをいただけたことは非常に有意義でした。



サンノゼ州立大での学生交流や高速鉄道フォーラム発表等の貴重な体験を短期間で数多く経験で

きました。ここでは日本人で初めて米国D.D.S.を取得した一井正典（いちのいまさつね）先生について記します。一井先生は熊本県出身で薩軍（西郷義軍）として西南戦争に参加した、最年少の「ラストサムライ」でした。西南戦争終了後は、時代に翻弄されながらも東京からキリスト教宣教師とともにカリフォルニア州サンフランシスコへ渡米します。当時一井先生は英語が堪能ではなく、生活するだけでも大変苦労していたと文献に残っています。しかしながら何とか異国の地で、あるアメリカ人の下で農作業を行う仕事を与えられ奉公することとなります。この人物が、日本の歯科医療に大きな影響を与えた歯科医師であるヴァンデルボルグでした。ヴァンデルボルグ先生は、今日の東京歯科大学へと続く高山歯科医学院を創設した高山紀齋先生の師でもありました。スタンフォード大学に1期生として入学する予定だった一井先生は、引退後のヴァンデルボルグ先生と出会うことで歯科医師を志すようになります。一井先生が滞在されていたロスガトスに今回私は訪れることができ、ヴァンデルボルグ先生の家やロスガトス駅跡を見て回りました。

ヴァンデルボルグ先生の下で奉公しながら、サンノゼ州立大学にて英語と基礎科目を学んだ一井先生は、フィラデルフィア・デンタルカレッジに入学します。慣れ親しんだ西海岸から東海岸へ移ったことで再び多くの苦難があったようですが、それらを克服し主席でフィラデルフィア・デンタルカレッジを卒業、米国D.D.S.を授与されます。その後はアメリカの大学歯学部で教授を務め、笑気麻酔やクラウンブリッジの技術を磨き、日本に帰国してからは技術普及に尽力されます。また、帰国後は東京歯科大学で講師として授業を行い、天皇の治療も行う宮内省侍医寮御用掛を務めます。そんな多くのエピソードを持つ一井先生の軌跡をたどり、イノベーションを続けるシリコンバレーに滞在することで私が学べたことの1つは歴史を知ることの重要性です。歴史を学ぶことで二つの事が分かってきます。

一つ目は、歴史を振り返ることで次の未来が予測できるということです。現在多くの分野においてハードウェアからソフトウェアの時代となつて

きており、より「モノ」の単位や世界が細かく小さくなってきています。そのような流れを読むことで、今後の研究やビジネスにはどのようなものが求められてくるのか、ある程度予想することができます。それを十分にイメージして生まれたのが、Google Glass であり iWatch でありナノ技術に応用したバイオサイエンスです。歴史から未来を予想することでその時代に合致したものを創出し応用することができ、かつ適切なタイミングで世に送り出すことで、多くの製品や新技術が成功しています。

二つ目は、今の自分をより深く理解できるようになるということです。学部生時代、私は歯科医学史に興味を持たず、母校である東京歯科大学については日本で最初の歯学部であること以外知りませんでした。しかし、今回偉大な先輩方が非常に困難な時期を乗り越えて、歯科医療発展のために多大な努力をされ如何に貢献してきたかを、知ることができました。もし高山先生や一井先生が歯科医師を志していなかったら、今の日本の歯科医療はなかったかもしれません。その歴史の流れを知ることで、私は母校である東京歯科大学により一層の誇りを持つようになりました。

最後になりましたが、今回このような機会を与えて下さった井出学長、田崎大学院研究科長をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。またこのような素晴らしいプログラムを構築・運営して下さいました井手祐二先生に深謝致します。

Elective Study カリフォルニア・イノベーション研修報告

歯科麻酔学講座
1年 高橋 香央里

9月中旬に大学のご厚意によりアメリカ・カリフォルニア研修に参加させていただきました。私が本研修に参加した目的は、世界に先立つ機関の在り方やその中でのリーダーシップを学ぶこと、異なる分野であっても同世代の目標を持った学生と触れ合うことでより良い自分の目標のための力にしたいこと、そして異文化の知識・価値観を学ぶことで診療時に役立てたいことでした。



世界に先立つ機関としては Google、Apple、Intel や Anacore Pharmaceuticals といったベンチャー企業、スタンフォード大学、カリフォルニア大学バークレー校、サンノゼ州立大学への訪問を致しました。それぞれの企業・大学では実際に活躍されている日本人の方や現地の方からお話を伺うことができました。どの方にも共通されていたのは目標が明確であることと努力を怠らないということでした。当たり前のことであっても成し遂げることの大切さを改めて感じました。そして企業においても人と人との繋がりの大切さが重要であり医療に携わる私たちとの共通点を発見することができました。1人で成り立つのではなくチーム



としての在り方やその中での自分の在り方を学びました。

研修中は日米未来フォーラム参加に向けて毎日準備を重ね、サンノゼ州立大学の学生ともディスカッションを致しました。ディスカッションを重

ねていく上で相手の考え方を学び、新しい考え方や私自身の改善すべき点を痛感させられました。特にサンノゼ州立大学の学生との交流をとおして他国独自の考え方を感じ、今後の臨床に役立てうる経験ができました。また他分野に属する学生との交流であったため知識として学ぶ点もいくつかありました。本研修の参加者は学部生と大学院生両者が参加しておりましたがどの学生も皆先の目標を持って参加しており非常に刺激を受けました。

本研修では得られたものは、多数ありますが特に重要なものとなったのがこれからの大学院の生活における新たな目標を得ることができたことです。どのように成し遂げるか。本研修でお会いした方々に倣い達成したいと考えております。

今回、このような貴重な機会を与えて下さった井出学長、田崎大学院研究科長をはじめ、関係各位及びこの様なすばらしいプログラムを構築された井手祐二先生に感謝申し上げます。



カリフォルニア・イノベーション研修報告

歯周病学講座
4年 今村健太郎

10日間のカリフォルニア・イノベーション研修に参加させていただきましたので報告します。本研修に参加した一番の目的は、視野を広くすることです。気づいてみると、東京歯科大学に入学してから11年が経っていました。その間、研修で開業医での臨床を経験、水道橋移転など環境変化はありましたが、東京歯科大学に守られ、周辺環境や人間関係の大きな変化は経験してきませんでした。また、歯科医師になって5年、日々の診療で

は拡大鏡を使い狭い口腔内を凝視し、研究では顕微鏡で細菌や細胞を観察しており、ある意味、狭い視野で生活していることを実感しています。歯科医師として更なるステップアップを図るには、グローバルな視野を広げる事が不可欠だと考えています。そこで、数多くの大学が集まり、学部も学科も異なる様々なバックグラウンドを持った学生と、シリコンバレーという世界の一流企業が集まる地で、英語を使ったディスカッションができるこの研修の事を知り参加しました。



今回の研修で心に残ったいくつかのことを紹介させていただきます。研修は、主催者である井手祐二先生による、日米の歴史やシリコンバレーについての講義からスタートしました。その中で「歴史は必ずどこかでつながっている。」という言葉が心に残り、今回の研修のキーワードになりました。日本史や世界史があまり得意ではなかった私は、「歴史」という言葉にアレルギー反応を示していました。しかし、井手先生のお話を聞いていく中で、その土地の文化、地理、民族を知ることの重要性だけでなく、歴史を知ることの面白さを感じました。なぜ、シリコンバレーが栄え、世界の一流企業が集中しているのか。シリコンバレーの“歴史”は1840年代の、いわゆるゴールドラッシュにはじまります。当時とは異なりますが、現在もなお世界各地からアメリカンドリームを求めこの地に人や会社が集まっています。このように歴史は続きます。

また、サンフランシスコ中心街のユニオンスクエアでは、東京歯科大学や日本の歯科界の歴史にも触れることができました。高山紀齋先生や日本で初めて Doctor of Dental Surgery (DDS) を取得し

た井正典先生が師として仰ぐ Dr. Daniel Van Denburgh のオフィス跡地を訪れました。現在は高級ブランドショップに姿を変えていましたが、高山先生が歩んだであろう道に立ち、先生のお気持ちを想像することで、異国の地で勉強することへのモチベーションが湧いてきました。他にも、150年以上前に福沢諭吉、勝海舟ら遣米使節団を乗せた咸臨丸が到着した地や、サンフランシスコ講和会議が行われたオペラハウスなどを見学しました。現代の日本を築くのに大きな影響を与えた地を訪れることができ、感慨ひとしおでした。

その後も、IT 企業、製薬会社などの企業訪問、スタンフォード大学、UC バークレー、サンノゼ州立大学での研究室見学や学生交流、また、宿舎の会議室ではシリコンバレーで活躍する日本人のお話を拝聴しました。演者の方々も日本の携帯電話会社の元アメリカ支社長、会計士、同時通訳、研究者、文部科学省、投資家など様々でした。自分では全く持っていない角度からの切り口でのお話がとても興味深かったです。

しかし、どうしても興味が向いてしまうのはアメリカで活躍している研究者のお話でした。留学したい研究室の教授とのアポイントの取り方、日本とアメリカの実験環境の違い、ボスとのやりとり、シリコンバレーで研究するメリットなどが聞けました。また、今後自分で実験計画を考えていく上でのヒントを伺ったところ、「新たな発想、発見をする為の一番の近道は、その研究の過去の論文を洗いざらい読みとき、これまでの流れを掴むことである。そうすることで更なる発展が容易に見えてくるはず。」との返答をいただきました。

必修講義

新たな試みである必修講義の集中講義が行われました。平成26年9月4、5日には、主に2年生を対象として、9月11日、12日には1年生を対象とした講義がなされました。2年生には病態学の講義が行われ、口腔領域に発生する病変について

帰国したら、歯周病学の「歴史」を、これまで以上にひもといてみたいと強く思いました。

世界トップレベルの方々のお話や、サンノゼ州立大学の学生とのディスカッション等の経験から、これまで自分の知らない世界を肌で感じ、視野を広げる経験ができました。この素晴らしい経験が、一時のものにならぬよう自分自身でじっくりフィードバックし、これからの歯科医師人生に活かしていけたらと考えています。



最後になりましたが、この様な機会を与えていただいた井出吉信学長、大学院関係の皆様、また現地でご指導いただいた井手祐二先生に御礼を申し上げます。そして大学院4年目のこの時期に、本研修への参加を後押しして下さった齋藤教授、ならびに長期不在でご迷惑をかけました歯周病学講座および保存科の皆様にご心より感謝いたします。

原因や病体を理解し、研究・診断・治療につながる知識を整理しました。

1年生は医療統計学で、的確な研究手法で効率のよい研究を進めていくために必要な知識を身につけることを目的に行われました。

講義を集中化させたことにより、夕方から夜にかけて何度も集まることが避けられ、その分、研究に集中できるようになったと思えます。



口腔外科学講座 村松助教による口腔外科学講義



千葉県立保健医療大学 大川教授による統計学の講義

研究進捗発表会（トライアル）

平成26年9月4日、5日に、大学院研究進捗発表会が行われました。今回は新たな試みということもありトライアルとして3年生の希望者による発表がありました。多くの参加があり、大学院生や指導者と活発な質疑応答が展開され、発表者にとって自分の研究内容や方向性を確認するよい機会となったようです。また参加者も刺激を受け、明日からの研究のモチベーションが上がったのではと思います。

来年度からは本格実施として3年生の発表は必須となります。指導者も参加していただきますようお願いいたします。



平成26年9月4日 参加者70名



平成26年9月5日 参加者60名

学生会より

平成26年度大学院学生会総会



井出学長から激励のお言葉



田崎大学院研究科長からのメッセージ

大学院学生会長
歯周病学講座
4年 今村健太郎

平成26年7月8日水曜日午後7時より水道橋校舎本館14階会議室において、平成26年度大学院総会が開催されました。総会に先立ちまして、学長の井出吉信先生より、水道橋校舎二期計画として西館建設、学部新入生の状況、台湾の大学院生交流等のお話をして頂きました。その後、大学院研究科長の田崎雅和先生より「大学院生として今やるべきこと」、教務部長の東俊文教授より「自分がなせることを考える重要性」、学生部長の齋藤

淳先生からは「臨床家、研究者を目指すうえで、今研究をしっかりとやることの重要性」等、激励のメッセージを頂戴しました。

昨年9月より水道橋校舎に移転して初めての総会でした。千葉病院、市川総合病院からも多くの大学院生が参加しました。平成25年度の大学院学生会会計報告、平成26年度活動予定、1年生の「学生教育研究災害保険・学研災付帯賠償責任保険」への加入金を大学院学生会費から支出する件等が承認されました。また、本格始動した口腔科学研究センターの使用状況、問題点、今後の改善点について議論を行いました。これからも様々な事柄について議論が必要になると思います。学生会としては大学院生の声をよく聞き、研究、生活環境の整備につながるよう努めていきたいと考えております。



東教務部長からカリキュラムの説明

編集後記

大学院だより 11号は **Elective Study** について特集しました。今年も海外に出て、様々な人々との出会いをとおして多くの事を学んできた大学院生がいたことは、頼もしく思いました。

水道橋に移転後、大学院の研究環境も落ち着いてきており、暑い夏の期間、じっくりと研究に打ち込む大学院生の姿を多くみかけました。その成果は、研究進捗発表会で目の当たりにすることができました。参加した大学院生はきっと大きな刺激を受けたことでしょう。これからの活躍を期待しています。
(齋藤 記)

